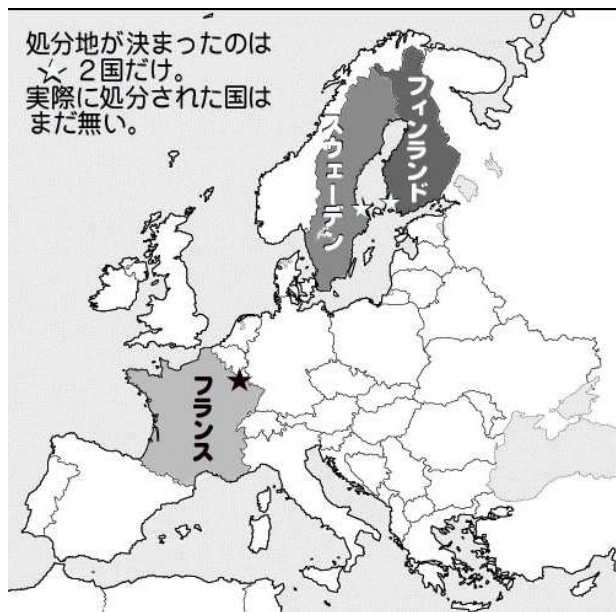


研究所は処分場の一里塚

どんな地域に決まったの？ フィンランドやスウェーデンの高レベル廃棄物処分場、フランスの候補地



3ヶ国とも、多くの地域で拒否され、局、研究所を含む原子力施設があり、「原子力に理解ある地域」が受け入れました。

フィンランド：オルキオト

原発と使用済み燃料の中間貯蔵施設、中低レベル放射性廃棄物の処分場があります。

調査で選ばれた5ヶ所のうち2自治体が拒否し、反対の声が小さかったユーロヨキのオルキオトに決まりました。

スウェーデン：フォルクスマルク

8自治体で調査したが6自治体が拒否。原発や中低レベル廃棄物処分場、使用済み燃料中間貯蔵施設、地下研究施設のあるエストハンマル市とオスカーシャム市のうち、地下に亀裂の少ないエストハンマル市フォルクスマルクに決まりました。

フランス：ビュール地下研究所周辺が候補地

研究所と同様の地質条件の所から、4ヶ所を候補地として公表しました。80年代の4ヶ所の地質調査は、大きな反対運動で中断。新たに花崗岩と粘土層に地下研究所を計画したが、花崗岩は亀裂と地下水で不適。粘土層の1県が拒否し、ビュールに地下研究所を建設しました。隣接県には中低レベル放射性廃棄物の処分場があります。

日本：超深地層研究所の周辺地域？！

研究所は、原発とみなして交付金が交付される「みなし原発」。高レベル廃棄物の処分場は、文献調査・概要調査・精密調査と進みます。

東濃では文献調査、概要調査が終わり、研究所では今精密調査地区の地下施設で行う調査と同等の調査が進んでいます。一方、10年1月現在、文献調査地域すらありません。

瑞浪市長は、研究所だけは受け入れたが、処分場は受け入れないと言います。

しかし、見学者たちは「研究所を処分場にすればよい」とか、「なぜ、瑞浪を処分場にしないのか…」、他に手をあげる地域は現れないのでは？」などと感想を書いています。



スウェーデンで指摘（電通新聞 2009.10.30）

高レベル廃棄物の最終処分地
原子力立地地域が優位

押しつけやすい

機構：超深地層研究所概念図

国は98年9月、知事らが反対しているので「岐阜県内が高レベル放射性廃棄物の処分地になることはないものであることを確めます」と知事に約束しました。古田知事は国に処分場を受け入れないと、直接申し入れています。

ところが、国は09年12月岐阜市で処分事業の説明会をしました。国は約束を破ったのです。更に国の事業仕分けで瑞浪市と幌は「絶対実際の場所にはならないという前提のもとでやっているのか？」と聞かれて文部科学省は「そこは非常に微妙です」とえました。86年以来騙して調査し、95年に研究所の協定を強引に結び、今また約束を破棄した国は、本気で研究所の周辺地域を分地として狙っていると、私たちは強く危惧しています。岐阜県で86年以来続く高レベル廃棄物処分研究の経過や現状は、市民ツ・岐阜のHP「れんげ通信」やブログ版、『原発ゴミは「負の遺産」-最終処分場のゆくえ』（創史社）などをご覧ください。